

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

資料1

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）			委員名
0-1 総論	細かなアイデアは、会議で出ていますが、社会教育・生涯学習の「ビジョン」を発信し、市民が共有することで、社会教育（＝自分の活動＝自分自身＝伊丹の地域）に関心と誇りが持てるようになるのでは？と感じます。	生涯学習とは 社会教育とは	「ビジョン」の共有	生きがいつくり 伊丹の魅力	G委員
0-1 総論	改めて、生涯学習、学校教育、社会教育を整理（復習）すると、 生涯学習 学校教育や社会教育だけでなく、家庭教育や、趣味やボランティア活動など（社会教育に含まれるかもしれないが）、人が一生を通じて自発的に行うすべての学習活動。 社会教育 学校教育以外で行われる教育活動で、個人の学び直しやボランティア活動、地域づくりに貢献することなど。 学校教育 子どもたちに基礎的な知識や学習能力を育む場であり、生涯学習の基盤を築く役割を持つ。 かな？	生涯学習とは 社会教育とは			B委員
0-1 総論	これまでに、社会教育委員の会が作成した、「提言」「報告書」に、もうすべて出尽くしているかとも思います。	これまでの社会教育委員の活動	過去の提言		G委員
0-2 テーマ	キャッチコピーや、ゆるキャラをつくり、学びが社会貢献になるって素敵だ！が浸透してほしいです。 「伊丹で学び愛」とか（笑）	伊丹で学び愛	学びは社会貢献になる		G委員
0-2 テーマ	学びたいこと⇒「生きがいつくり」 テーマ「すべての人に生きがい！」	すべての人に生きがい！			A委員
0-2 テーマ	未熟な考えの私が、考えたキャッチフレーズは 世代をこえ一緒に（共に）チャレンジ！ 一緒に（共に）チェンジ！！	世代をこえ一緒に（共に）チャレンジ！ 一緒に（共に）チェンジ！！			D委員
0-1 総論	社会教育・生涯学習は、自分のために学ぶことがスタートかもしれませんが、 自分のために学ぶ⇒誰かのために学びを生かす⇒学んだ仲間と社会に貢献する⇒自分の生きがいにつながる⇒誰かと一緒に学びたくなる この繰り返し共有できればいいですね。	学びの循環	生きがいつくり	生涯学習とは 社会教育とは	G委員
0-1 総論	・知識や経験を地域での活動に還元できる仕組みづくり 地域での活動について、アンケート結果も全体で「すでに活かしている」21%、「まだできていないが、活かしてみたい」50%と関心が高く、若い層は「まだできていないが、活かしてみたい」が非常に高かった。 部活動の地域移行も今後進むなか、その受け皿をつくと同時に、企画段階から地域の方に携わってもらえる仕組みを検討していくことが、市民の生きがいとなる生涯学習につながるのではないか。	学びの循環	生きがいつくり		K施設長
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	学びたいことのターゲットは年代によってバラバラ→全て対応するの？	世代ごとのニーズ			A委員
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	年代によって求めるものが違う。年代をわけての推進もあるのではないか	世代ごとのニーズ			H委員
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	私も子どもが心豊かに育つには、どのような活動が大切か常に考えながら、活動していますが、これからは、幅広い世代に学習の機会をつくる必要があります。	世代ごとのニーズ			J委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）			委員名
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	・知識や経験を地域での活動に還元できる仕組みづくり 地域での活動について、アンケート結果も全体で「すでに活かしている」21%、「まだできていないが、活かしてみたい」50%と関心が高く、若い層は「まだできていないが、活かしてみたい」が非常に高かった。 部活動の地域移行も今後進むなか、その受け皿をつくと同時に、企画段階から地域の方に携わってもらえる仕組みを検討していくことが、市民の生きがいとなる生涯学習につながるのではないか。	子ども・若者	部活動の地域移行		K施設長
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	公共施設の利用は高齢者。	高齢者			A委員
1-1 あらゆる世代が学べる場づくり	超高齢化社会における公共の生涯学習センターとしては、高齢者(となった方)に生涯学習のまず一歩を踏み出しているため、初心者向けの講座を幅広く実施していく必要があると考えている。 その際、内容によって、無料にすべきものや講師の選定が困難なものについては、市や市の直営施設において実施することが望まれる。	体系的な学び	高齢者	施設の役割分担	L施設長
1-2 誰もが学べる場づくり	アンケートの自由記述では、講座の種類や内容の充実、開催日程の変更を求める意見が見受けられた。 一番の課題は、講師の確保と思われるが、それも含めて、県・市と市の直営施設並びに指定管理施設との役割分担を明確にした上での連携、民と公の役割分担と連携が必要である。	週末・夜間の講座	施設の役割分担		L施設長
1-2 誰もが学べる場づくり	・費用、日程、時間帯が選択できる多彩な講座等の開催 アンケートから学ぶことに対する課題として「費用が掛かる」「日程や時間帯が合わない」という回答が上位を占めた。同じ施設内でも、無料講座から専門の先生による有料講座まで、また曜日や時間帯も多様に設定し、市民の方に選択してもらえるよう企画する必要があると考える。 施設で棲み分けするのではなく、身近な施設で利用したい市民も多く、工夫次第で可能だと考えるので、施設ごとに多少特徴を持たせることはあるかもしれないが、伊丹市のどこでも同じように生涯学習に携わることができるのが理想であると考えている。	週末・夜間の講座	費用面のハードル	施設の役割分担	K施設長
1-2 誰もが学べる場づくり	アンケートではたくさんの市民が講座等を受け生きがいを感じ地域などに還元されている一方で、公的施設への交通の不便さや講座への物足りなさ、周知方法など課題も見えています。	魅力的なコンテンツ作り	アクセスのハードル		C委員
1-2 誰もが学べる場づくり	今回のアンケート結果からの課題として、「費用がかかる」「講座の日程や時間帯が合わない」等の意見があり、出来るだけ安価、無料の講座や学習機会を設ける必要があり、時間帯についても土日や夜間等の講座や時間的・場所的制約を受けないインターネットを活用した学習が出来るような環境を作る必要がある。	週末・夜間の講座	費用面のハードル	オンライン講座・オンデマンド講座	E委員
1-2 誰もが学べる場づくり	インターネットが普及して様々な情報が無料で手に入るようになったので、費用をかけてまで学びに行くということが少なくなっている気がします。できるだけ費用がかからない方法を考えていかないといけないと思います。また、費用をかけてでもそれを学びたいと思えるようなコンテンツ作りも重要かと思えますし、それを告知する広報も重要だと思えます。	魅力的なコンテンツ作り	費用面のハードル		I委員
1-2 誰もが学べる場づくり	インターネットを利用できる人とあまり利用できない人では対応が異なるので、それぞれに対応した方法を考える必要があります。特に高齢者等については、これからのカードレス、キャッシュレス時代に対応すべく、スマホやインターネットの使い方について学習する必要があります。	デジタル・デバイス			E委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）				委員名
1-2 誰もが学べる場づくり	時間・費用（学ぶ難しさ）などは言いわけにすぎないと感じる→費用がかからないのは社会教育施設でしょ	学びのハードルの感じ方				A委員
1-2 誰もが学べる場づくり	学びたいことはないなんてヤツのニーズに対応する必要などなし。やりたい人、重要度に目をむける！	学びのハードルの感じ方				A委員
1-3 社会の課題に応える学びの場づくり	生きがい、多様化ではあるが、限られた予算で多様な選択肢の提案はできるか？多様化に対しては場の提供、予算は重要pointに集中。	多様なニーズ	予算面の課題			A委員
1-3 社会の課題に応える学びの場づくり	また学習内容についても、多様なニーズを把握し、提供できる手段（人や情報等）のマッチングができるシステムが必要である。	多様なニーズ				E委員
1-4 学び直し（リカレント教育）や高度な学びの提供	民間とのコラボはどうだろうか	民間との連携				H委員
1-4 学び直し（リカレント教育）や高度な学びの提供	国立教育政策研究所が発行している『公民館に関する基礎資料』所収の「公民館施設の民間営利社会教育事業者による利用について」には、「民間営利社会教育事業者の様々な事業のうち公民館の目的等に合致するものとの必要な連携・協力も含めて、公民館の学習機会の提供機能の充実と公民館活動の一層の活性化に努めていくことが期待される。」とあり、当センターでも、ソフトバンク㈱によるスマホ講座や生命保険会社による健康講座やライフプランセミナーを実施している。今後も、講座を充実していくため、ますます民間との連携拡大を図っていくべきと考えている。 しかしながら、深い学びや高度な専門性を求める講座、それらは、往々にして高額な受講料で有名な講師を招き実施されるが、こうした講座は、民間のカルチャーセンター、カルチャースクールにその役割を譲らざるを得ない。	民間との連携				L施設長
2-1 学びとその活用に関する情報発信	伊丹市の社会教育・生涯学習の課題は、施設等が良い企画をたくさん作っているのに、それが伝わっていないことで、伝わっていないから、職員や担当者のモチベーションが上がらないのだと感じます。	魅力を伝える広報				G委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	広報伊丹利用度高し。これを利用した周知。インターネットと繋げる。（市のHP⇄各館のHP）	広報紙とHPの連動				A委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	前回の会議では広報のあり方についての意見が各施設から多くあったが（学校配布ができない）、市全体の生涯学習推進とは少し違うように思う	マクロな視点				H委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	【再掲】 アンケートではたくさんの方々が講座等を受け生きがいを感じ地域などに還元されている一方で、公的施設への交通の不便さや講座への物足りなさ、周知方法など課題も見えています。	学びの魅力が伝わる情報発信				C委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	【再掲】 インターネットが普及して様々な情報が無料で手に入るようになったので、費用をかけてまで学びに行くということが少なくなっている気がします。できるだけ費用がかからない方法を考えていかないといけないと思います。また、費用をかけてでもそれを学びたいと思えるようなコンテンツ作りも重要かと思えますし、それを告知する広報も重要だと考えます。	学びの魅力が伝わる情報発信				I委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	情報の提供・発信については、広報やチラシによる方法も必要ですが、公共施設や人が集まる場所（ショッピングモール、駅など）で電子掲示板等の設置やインターネットのわかりやすい検索システムや適切な情報提供ができるような管理体制も必要である。	学びの魅力が伝わる情報発信	学びに関する情報の集約化			E委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	生涯学習事業について、前回の会議で各施設の講座の内容は、とても興味深く充実した物が多々あり、広報等に注力するべきではないかとの話題がありました。そこで広報をどのように強化し市民や市内在勤者の皆様に生涯学習事業を周知できるか、熟考の上、以下の提案をさせていただきます。	学びの魅力が伝わる情報発信				F委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）				委員名
2-1 学びとその活用に関する情報発信	<p>1. プッシュ型の情報拡散</p> <p>現在の伊丹市のメールマガジン（ホームページより確認）</p> <p>①市立学校・幼稚園緊急時のお知らせ</p> <p>②市税納期限メールお知らせサービスについて</p> <p>上記2件のメールマガジンがあります。</p> <p>ここに生涯学習のメールマガジンを追加出来ると興味がある方に登録して頂けたら情報が届けられるのではないかと考えました。このメールマガジンは、各施設の講座内容を配信し、興味ある講座をチェックボックスで選んで頂き（<input checked="" type="checkbox"/>ダンス<input type="checkbox"/>陶芸<input type="checkbox"/>エクササイズ<input checked="" type="checkbox"/>短歌みたいな感じで）その選んだ情報について各施設の講座内容が配信される仕組みにすると良いと思います。また、65歳以上の方などは市バスの無料乗車券があるので、少し距離があっても足を運んで頂ける率が増えるのではないかと考えました。</p>	学びの魅力が伝わる情報発信	プッシュ型発信	メルマガ	セグメント配信	F委員
2-1 学びとその活用に関する情報発信	<p>2. SNS運用について・・・</p> <p>InstagramやX等での情報発信をされている施設もあり、努力されているのが現状だと思います。</p> <p>伊丹市としては消防局のインスタなどが多く視聴された例もありSNSでの発信を多くしていきたいとお考えかもしれませんが、SNS運用のリスクマネジメントは、とても難しいと思われるので、市でのルール作りなどを徹底し、各施設に丸投げにならないように運用して欲しいと思います。</p>	学びの魅力が伝わる情報発信	SNS運用のリスク		F委員	
2-1 学びとその活用に関する情報発信	<p>・情報提供について</p> <p>関心がある人は自らそれぞれ興味のある分野でホームページやSNSで情報収集するが、関心がない人にも、またある人でも知らない分野を新たに色々な分野で生涯学習に触れ、生きがいとなるきっかけとなるよう、様々な分野で自動的に色々な情報を得ることができる仕組みが必要である。</p> <p>自動的に情報が届くSNS等は有効である。</p> <p>また、各施設が担当の施設のことだけでなく、伊丹市全体の各施設、登録団体、講座、イベント等を分野ごとに市民に紹介し、市民自らも検索できるようになれば情報の幅が広がるのではないかと。市内全施設のイベント・講座の一覧が掲載され、検索できるサイトがあればよいが、情報更新等、課題は多いことは予想され、予め決められたシステムがなければ現実的ではないが、あれば情報面で有効であると思う。</p>	学びの魅力が伝わる情報発信	学びに関する情報の集約化	SNSのメリット	K施設長	
2-3 施設や組織の連携	あと、印象に残っているのは、「コミュニティスクール」ではなく、「スクールコミュニティ」=学校を多世代が交流できる核にする、という考え方です。	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	スクール・コミュニティ	G委員	
2-3 施設や組織の連携	<p>学校教育との連携</p> <p>学校公民館計画</p> <p>（校内フリースクール、校内こども食堂の実現 地域サポーター運営）</p> <p>（近い、費用がかからない出前講座、大人の土曜学習、気軽に集まれる場所）</p> <p>学校を核とした社会教育の推進</p> <p>ことば蔵、きらら、ラスタ=地域格差</p> <p>⇒学校が一番近い</p> <p>自治協 地域ビジョンの宝</p> <p>⇒これの仕組みづくり</p> <p>市長部局との連携 まちづくり推進課</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学校公民館計画	A委員	

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）				委員名
2-3 施設や組織の連携	今まで、8年間社会教育委員として、わからないなりに、「社会教育」をどう推進していけばよいか、と委員の方々と考えてきましたが、今年度は「生涯学習」という諮問で、「社会教育+学校教育=生涯学習」と教わってきたので、「学校教育」のことと、どう「社会教育」を合わせたらいのかがわからなくなっていました。 神部先生のお話を聞き、積極的に地域と学校を結び付けて、一段上の地域学校協働の一体的推進を考えていかなければならないと思いました。	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	地域学校協働活動	生涯学習とは社会教育とは	D委員
2-3 施設や組織の連携	「生涯学習施策の方向性」を考えたとき、社会教育と学校教育のつながりは必須と考えられますが、現状、両者のつながりはコミスクの地域学校協働活動に限られ、更にはコミスクに軸足がおかれています。学校のための地域だけではなく、地域のための学校（子どもたち）を意識したつながり（仕組みづくり）により、子供たちが身に着けた資源を地域に還元し、それがまた地域から子供たちに戻っていく循環の構築が必要だと考え、この両者の立ち位置とつながりについて検討してはと思います。	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学びの循環		B委員
2-3 施設や組織の連携	【再掲】学校教育との連携 学校公民館計画 （校内フリースクール、校内こども食堂の実現 地域サポーター運営） （近い、費用がかからない出前講座、大人の土曜学習、気軽に集まれる場所） 学校を核とした社会教育の推進 ことば蔵、きらら、ラスト＝地域格差 ⇒学校が一番近い 自治協 地域ビジョンの宝 ⇒これの仕組みづくり 市長部局との連携 まちづくり推進課	市長部局との連携	まちづくりとの連携	自治協との連携		A委員
2-3 施設や組織の連携	伊丹市の重点3「学校と地域をつなぐ横の連携の充実と、生涯学習社会の構築」を意識すると、教育委員会に本籍のある「学校教育・社会教育」と、まち課に本籍を置く「地域」をつなぐには、市長部局と教育委員会のつながりの見直しも必要ではないかと考えます。	市長部局との連携	まちづくりとの連携			B委員
2-3 施設や組織の連携	アンケートの回答者には市外の人も多く、伊丹市内だけでなく幅広い地域からの参加があることは近隣の市町村との連携も必要だと感じました。	他自治体との連携				C委員
3-1 学びを次の学びへ活かす仕組みづくり	市としての生涯学習事業の受講者管理について・・・ 生涯学習事業についてきららホールの館長が『各施設の講座は生涯学習の入り口であり、そこから深く習得したい方は民間の講座等に続けて学習を継続して頂きたい』とおっしゃられており、その通りだと思いました。 ただ現状は、あくまでも憶測ですが講座を一期受講終了してもまた同じ講座を繰り返し申込される市民や市内在勤者の方々が一定数おり、自然と常連グループが形成され、新規の受講者が受講しづらい環境になっていたりする事もあるのではないかと思います。 （私自身前職で講座運営を行っていた時に常連受講生の方々が新たな教室や講座へ流れて行ってくれない事による新規受講者獲得が難しく、とはいえ常連受講者を断る事も受講料の観点から予算的にも教室運営的にも難しく、この負のループと言われることへの対策が出来なかったため、もしそのような事が起こっている施設があるなら、何か良い方法があれば・・・と考えておりましたが、今は思いつかずといった感じです。）	体系的な学び	新規受講者の獲得			F委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）			委員名
3-1 学びを次の学びへ活かす仕組みづくり	<p>【再掲】・費用、日程、時間帯が選択できる多彩な講座等の開催</p> <p>アンケートから学ぶことに対しての課題として「費用が掛かる」「日程や時間帯が合わない」という回答が上位を占めた。同じ施設内でも、無料講座から専門の先生による有料講座まで、また曜日や時間帯も多様に設定し、市民の方に選択してもらえるよう企画する必要があると考える。</p> <p>施設で棲み分けするのではなく、身近な施設で利用したい市民も多く、工夫次第で可能だと考えるので、施設ごとに多少特徴を持たせることはあるかもしれないが、伊丹市のどこでも同じように生涯学習に携わることができるのが理想であると考えている。</p>	体系的な学び			K施設長
3-2 学びを活かす仲間づくり	<p>私が公民館で学び人生が大きく変わるきっかけとなった40数年前と比べると時代もかわり、学びたい内容は多岐にわたってオンラインでの参加なども増えています。</p> <p>ただ基本はやはり「直接人と人が出会う」ことが大切だと思います。</p>	人と人が出会う			C委員
3-2 学びを活かす仲間づくり	<p>地域での活動について、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動への関心が高いことがわかります。</p> <p>学んだことを、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動へ効果的につないでいけるような仕組み作りに向けた生涯学習支援策を検討することが重要だと考えられます。</p>	学びを生かせる場			J委員
3-2 学びを活かす仲間づくり	<p>学んだことを生かせる場や、自由にコミュニケーションがとれる場所や機会を設ける必要がある。</p>	学びを生かせる場	自由なコミュニケーションの場		E委員
3-4 学びを活かす人づくり	<p>【再掲】・知識や経験を地域での活動に還元できる仕組みづくり</p> <p>地域での活動について、アンケート結果も全体で「すでに活かしている」21%、「まだできていないが、活かしてみたい」50%と関心が高く、若い層は「まだできていないが、活かしてみたい」が非常に高かった。</p> <p>部活動の地域移行も今後進むなか、その受け皿をつくると同時に、企画段階から地域の方に携わってもらえる仕組みを検討していくことが、市民の生きがいとなる生涯学習につながるのではないかと考えています。</p>	市民企画			K施設長
3-4 学びを活かす人づくり	<p>受講者だけでなく、講師も高齢化してきており、地域における新たな講師の養成や資格取得講座については、県・市の役割として期待するところである。</p>	利用者の高齢化	指導者育成		L施設長
4-1 世代を超えてつながる	<p>市内の地図に小学校・中学校を書きこみ、又、市の公的社会教育施設も書きこみ、自習室もあるよ！ 図書館もあるよ！ こんなこともしているよ！！ 図がらで示し、パンフレットにして配布するなり、小学生（2、3年生で）施設の見学をしたりして、市内を知ってもらうことも、大切なことだと思います。（チラシだけでなく）</p>	子どもたちへの伊丹の魅力発信	伊丹の魅力		D委員
4-1 世代を超えてつながる	<p>幅広い年齢層の人たちをどのように繋げていくか、学校での土曜学習のような形でできることがあればいいなと思いました。</p>	世代間交流	子どもと大人がつながる		C委員
4-1 世代を超えてつながる	<p>校区の中では、土曜学習や子ども食堂etc地域の人々が多くかかわってくださり子どもの成長を見守ってくださる。大人達が、自分自身のために、笑顔で積極的にかかわっている姿は、子ども達にとって良い見本となり、自分達が「大人になったら誰かのためにがんばりたい」と思える姿になることがいいのではと思います。</p>	世代間交流	子どもと大人がつながる	学校を核とした地域づくり	D委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）				委員名
4-1 世代を超えてつながる	<p>【再掲】 地域での活動について、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動への関心が高いことがわかります。</p> <p>学んだことを、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動へ効果的につないでいけるような仕組み作りに向けた生涯学習支援策を検討することが重要だと考えられます。</p>	世代間交流	子どもと大人がつながる			J委員
4-1 世代を超えてつながる	<p>10代「学びを地域に生かしたい」80%←ここを育てる若年層参加促進の施策に集中</p> <p>地域のイベント等、子どもたちの学びや成長を支える活動</p>	若者の学びを地域に				A委員
4-1 世代を超えてつながる	<p>【再掲】 ・知識や経験を地域での活動に還元できる仕組みづくり</p> <p>地域での活動について、アンケート結果も全体で「すでに活かしている」21%、「まだできていないが、活かしてみたい」50%と関心が高く、若い層は「まだできていないが、活かしてみたい」が非常に高かった。</p> <p>部活動の地域移行も今後進むなか、その受け皿をつくると同時に、企画段階から地域の方に携わってもらえる仕組みを検討していくことが、市民の生きがいとなる生涯学習につながるのではないか。</p>	子ども・若者	若者の学びを地域に	市民企画	部活動の地域移行	K施設長
4-1 世代を超えてつながる	<p>【再掲】 「生涯学習施策の方向性」を考えたとき、社会教育と学校教育のつながりは必須と考えられますが、現状、両者のつながりはコミスクの地域学校協働活動に限られ、更にはコミスクに軸足がおかれています。学校のための地域だけではなく、地域のための学校（子どもたち）を意識したつながり（仕組みづくり）により、子供たちが身に着けた資源を地域に還元し、それがまた地域から子供たちに戻っていく循環の構築が必要だと考え、この両者の立ち位置とつながりについて検討してはと思います。</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学びの循環		B委員
4-2 学校とつながる	<p>【再掲】 学校教育との連携</p> <p>学校公民館計画 （校内フリースクール、校内こども食堂の実現 地域サポーター運営） （近い、費用がかからない出前講座、大人の土曜学習、気軽に集まれる場所）</p> <p>学校を核とした社会教育の推進 ことば蔵、きらら、ラスタ＝地域格差 ⇒学校が一番近い 自治協 地域ビジョンの宝 ⇒これの仕組みづくり 市長部局との連携 まちづくり推進課</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学校公民館計画		A委員
4-2 学校とつながる	<p>【再掲】 今まで、8年間社会教育委員として、わからないなりに、「社会教育」をどう推進していけばよいか、と委員の方々と考えてきましたが、今年度は「生涯学習」という諮問で、「社会教育+学校教育=生涯学習」と教わってきたので、「学校教育」のことと、どう「社会教育」を合わせたらいのかがわからなくなっていました。</p> <p>神部先生のお話を聞き、積極的に地域と学校を結び付けて、一段上の地域学校協働の一体的推進を考えていかなければならないと思いました。</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	地域学校協働活動	生涯学習とは社会教育とは	D委員

社会教育委員からの提案

※ご提案を分野ごとに区切り、接続語以外をほぼ原文ママで掲載しています。

分野	提案	キーワード（順不同・便宜上、事務局で端的に抽出しています）				委員名
4-2 学校とつながる	<p>【再掲】「生涯学習施策の方向性」を考えたとき、社会教育と学校教育のつながりは必須と考えられますが、現状、両者のつながりはコミスクの地域学校協働活動に限られ、更にはコミスクに軸足がおかれています。学校のための地域だけではなく、地域のための学校（子どもたち）を意識したつながり（仕組みづくり）により、子供たちが身に着けた資源を地域に還元し、それがまた地域から子供たちに戻っていく循環の構築が必要だと考え、この両者の立ち位置とつながりについて検討してはと思います。</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学びの循環		B委員
4-3 地域とつながる	<p>【再掲】学校教育との連携 学校公民館計画 （校内フリースクール、校内こども食堂の実現 地域サポーター運営） （近い、費用がかからない出前講座、大人の土曜学習、気軽に集まれる場所） 学校を核とした社会教育の推進 ことば蔵、きらら、ラスタ＝地域格差 ⇒学校が一番近い 自治協 地域ビジョンの宝 ⇒これの仕組みづくり 市長部局との連携 まちづくり推進課</p>	市長部局との連携	まちづくりとの連携	自治協との連携		A委員
4-3 地域とつながる	<p>【再掲】「生涯学習施策の方向性」を考えたとき、社会教育と学校教育のつながりは必須と考えられますが、現状、両者のつながりはコミスクの地域学校協働活動に限られ、更にはコミスクに軸足がおかれています。学校のための地域だけではなく、地域のための学校（子どもたち）を意識したつながり（仕組みづくり）により、子供たちが身に着けた資源を地域に還元し、それがまた地域から子供たちに戻っていく循環の構築が必要だと考え、この両者の立ち位置とつながりについて検討してはと思います。</p>	学校教育との連携	学校を核とした地域づくり	学びの循環		B委員
4-3 地域とつながる	<p>【再掲】地域での活動について、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動への関心が高いことがわかります。 学んだことを、子どもの学びや成長、地域活動、文化芸術・観光などの活動へ効果的につないでいけるような仕組み作りに向けた生涯学習支援策を検討することが重要だと考えられます。</p>	学びを生かした地域づくり				J委員
4-3 地域とつながる	<p>【再掲】 キャッチコピーや、ゆるキャラをつくり、学びが社会貢献になるって素敵だ！が浸透してほしいです。 「伊丹で学び愛」とか（笑）</p>	地域人材が活躍する場づくり	学びを生かした地域づくり	学びを地域課題の解決へつなげる仕組みづくり		G委員